



自然と暮らしの道しるべ

石垣島平久保半島インタープリテーション全体計画

Ishigaki Island Hirakubo Peninsula Interpretation Plan

Ver. 2.0

はじめに

沖縄県石垣島の北東部に伸びる平久保半島には、
石垣島南部のにぎやかな観光地とは異なるゆったりとした空気が流れています。

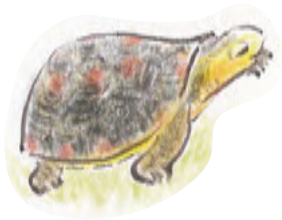
半島の中央に伸びる山上からは東西の海岸と雄大なサンゴ礁をひとめに眺め、
島を吹き抜ける風を味わうことができます。

山裾には牧場とサトウキビ畑が穏やかに広がります。
夜になればサガリバナが甘い香りを放ち、星空が天の川を描き出します。
5つの集落にはそれぞれの成り立ちがあり、独自の祭りがあります。

そんな平久保半島の“あたりまえ”は、
他のどこに行っても見つけることができない“特別”です。

この冊子では、各集落でたくさんの方々から伺ったお話を元に、
地域の自然や文化、生業をいくつかのストーリーとしてまとめました。

平久保半島だけの特別な“あたりまえ”をみんなで共有し、
大切に次の世代につないでいく一助となることを願っています。



目次

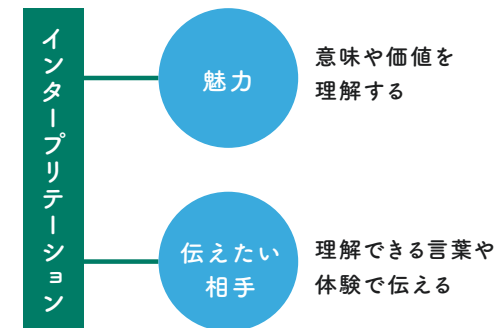
- 2 はじめに
- 3 目次
- 4 平久保半島について
- 6 暮らしと文化のキーワード
- 7 自然のキーワード
- 8 平久保半島で、どのように過ごしたらよいのだろうか？
- 9 私たちは、誰に何を伝えればよいのだろうか？
- 10 平久保半島 自然と暮らしのストーリー
- 32 マイクロヒストリー あの日の平久保半島
- 38 もっと知りたい方へ

インタープリテーション全体計画とは

この冊子のサブタイトルは「石垣島平久保半島インタープリテーション全体計画」です。「インタープリテーション」とは、地域に息づくストーリーや魅力、価値を、わかりやすい言葉や体験活動を通して伝える営みです。

来訪者や次世代に効果的に伝えるための方策を、包括的かつ体系的にまとめたものが「インタープリテーション全体計画」です。近年、各地でも作成が進められていますが、石垣島ではすでにホテルや観光事業者グループが独自に計画を作成するなど、先進的な取り組みが進んでいます。

このストーリーブックは、平久保半島の皆さんが地域の魅力を語り、伝える際に活用できることを重視して作成しました。



平久保半島について

東シナ海と太平洋に囲まれた 生命たちが息づく場所

平久保半島は、石垣島北部の自然に囲まれた美しい地域で、豊かな森林と清らかな空気が訪れる人々を魅了しています。

北から平野、平久保、久宇良、明石、伊原間の5つの集落があります。畜産やサトウキビ、野菜生産などの農業、豊かな自然を味わう観光業などが行われています。

生物多様性が豊かな地域でもあり、陸や海の多くが西表石垣国立公園の保護地域に指定されています。



平久保半島鳥観図

Hirakubo Peninsula - Bird's-eye view



暮らしと文化のキーワード

キビ倒し

サトウキビの収穫作業は冬の風物詩。



ミルク様

海の彼方の楽土から豊年と平和を運んでくる神様。



浜下り

旧暦3月3日に女性が健康を祈願し海で身を清める。



フーカキサバニ

帆に風を受けて進む伝統木造船。



パラグライダー

南東のゆるやかな夏の風で舞い上がる。



マユンガナシ

まじめに働けば果報は必ずやってくると伝えにきた神の使者。



田植え

陸稲が多かった。東海岸には多良間島の人を通った多良間田がある。



ビーチクリーン

冬の季節風とともにどんどん流れ着く海ごみから、美しい海岸を維持しライフスタイルを見直したい。



投網

ミジュンなどを捕まえる。



豊年祭

五穀豊穡に感謝し、来年の豊作を祈願する祭。



明石エイサー

沖縄本島からの入植とともに伝えられた。



獅子舞

悪霊を払い五穀豊穡と無病息災を祈願する。

イザリ

冬の大潮の干潮時に行われる伝統的な漁。

自然のキーワード

南十字星

1～6月に南の水平線近く。見えるのは1時間ほどで時期により見える時間が変わる。



天の川

夏は銀河系の中心部の星が濃い部分。冬は外側の薄い部分が天の川となって見える。



ウミガメの産卵

夏が産卵のピーク。明かりがない静かな浜が大切。



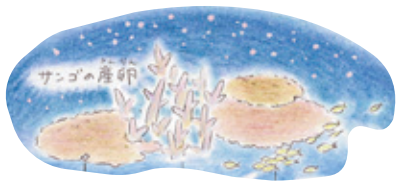
ヤシガニ

平久保半島には捕獲全面禁止の保護地区がある。



サンゴの産卵

5月頃の大潮の夜に一斉産卵がある。



カンムリワシ

特別天然記念物。幼鳥は羽が白くて美しい。冬場によく観察できる。



リュウキュウイノシシ

琉球列島に分布しているイノシシの亜種。



ツチトリモチ

12月頃森の中で見られる寄生植物。



野菜・熱帯果樹

季節により様々な野菜や果物が収穫される。



ミジュン

ニシンの仲間の小さな魚。夏から秋に大きな群れで泳ぐ。



季節風

梅雨明けを告げる夏至南風（カーチバイ）。



セミ

その年最初に鳴くのがイワサキクサゼミ。



梅雨明けとともにリュウキュウクマゼミ。



新北風（ミーニシ）は秋の気配とサシバの渡り。

月桃

梅雨入りのころ白い花がこぼれるように咲く。



オカガニ

夏の大潮の夜、放卵のために海に向かう。



テップウユリ

夏、海に近い険しい岩場に咲く。



オオゴマダラ

日本最大級の蝶。黄金の蛹で石垣市の市蝶になっている。



アーサー・モズク

春はおいしい海藻の季節。



アオリイカ、クビシミ（コブシメ）

イカ釣りは冬場がベストシーズン。



平久保半島で、どのように過ごしたらよいのだろう？

1

海岸でのんびりする

波の音を聴きながら、
日常を忘れて自分だけの時間を
楽しんでほしい

2

夏の夜にサガリバナを 見に行く

夜の静けさを味わいながら、
サガリバナの色や香りを楽しんでほしい

3

足元の岩に触れてみる

悠久の時間の流れを感じ、
その向こうにある自然を
想像してほしい

4

サンゴ礁で泳ぐ

シュノーケリングやダイビングで
青く豊かなサンゴ礁の海の
生態系に触れてほしい

5

エコロードに行ってみる

雄大な風景を楽しみながら、
平久保半島の歴史にも
触れてほしい

6

地域の人と話してみる

民宿や売店など、
地域の人と出会ったら
会話を楽しんで交流してほしい

7

地域のものを食べてみる

平久保半島産の地のものを
食べる機会があったら食べてほしい
きっとおいしいはず

8

地域の祭りに参加してみる

参加歓迎なものには参加して、
楽しみながら
地域の文化に触れてほしい

9

自然観察に出かけてみる

鳥や虫の声を聞いたり、
その姿を探したり、
生き物の気配を感じてほしい

10

体験型観光に参加してみる

プロのガイドとともに安全で
自然を大切にする楽しみ方で過ごしてほしい

11

星空を眺める

人工の明かりがない平久保半島で、
時間を忘れて満天の星空を眺めてほしい

私たちは、誰に何を伝えればよいのだろうか？

まだまだ知らないこともあるんだな

長く住んでいたけれど知らなかったこともある。
歳を重ねるとこれまでとは違うことにも
興味を持つようになるね。
自分たちが暮らすこの地域のことをもっと学ぼう。

もっとゆっくり見てほしい…

駆け足で通り過ぎる観光客。
ゆっくり過ごすことでこの地域の良さがわかるのに。
この地域にはこんな魅力があるのだけど、こんな過ごし方もあるのにな。
私たちしか知らない魅力を、観光で訪れる人にも伝えたい。

あんなことがあったんだよ

いろいろ苦労もした。それでも楽しいこともあった。
一人一人の歴史の上に今の暮らしがあるのだと思う。
新しくこの地で暮らし始める人がいるのなら、
そんなことも伝えたい。

ここは君たちのふるさと

この地域には多様な伝統がある。
誇れる文化がある。豊かな自然がある。
少しずつ変化しながらも、後の世代まで続いてほしい。
ここがふるさとになることもたちに、伝えたい。

守ってほしいこともある

魅力を感じて訪れる人が増えるのはいいのだけど、困ることもある。
入ってはいけない場所もあるし、静かにしてほしいときだってある。
守ってほしいことを、それに気づいていない人がいたら伝えたい。

変わらないことも、新しいことも、 伝え続けよう

このページをめくると、平久保半島のかけがえのない魅力を
めぐるストーリーが始まります。
このストーリーブックに完成はありません。これからも
みんなで語り合って、どんどん書き加えていきましょう。

平久保半島 自然と暮らしのストーリー

● 海岸と漂着物

残したい風景や思い出が、 波音とともにそこにある

波打ち際を歩く。

静かなサンゴ礁、白い砂浜、蝶の舞う海岸林。

水平線の向こうには知らない世界があり、
後ろには自分の暮らしがある。

生活の場であり、祈りの場であり、
学びの場であり…

みんなで楽しむこともあれば、

自分だけの時間を過ごすこともある。

見渡しても人工物が見えないことが私たちの誇り。



想像することで、 海から流れ着く様々なものの向こうに 世界が見える

打ち上げられたサンゴ

平久保半島の東海岸には、浅瀬や海岸に大きなサンゴの岩がある。多くはハマサンゴなどの巨大なサンゴ。これらを海の中から打ち上げたのは、津波や台風による波の力。過去の災害の痕跡なのかもしれない。



海を漂う生物に出会う

強い風の日には浮遊性の生物が流れ着くことがある。カツオノカンムリ、カツオノエボシ、ギンカクラゲ、ルリガイ、アサガオガイ…。普段は目にすることができない海を旅する生き物たちを探しに行こう。

人工物が目に入らない自然海岸は、
それだけで価値がある



海岸を清掃する

平野や東海岸など漂着ごみが特に多く流れ着く海岸がある。そのままにしていると景観も悪く環境にもよくない。再流出すると違う場所での問題となる。できる限り掃除したい。一人で静かに。ときには大勢で楽しく。ビーチクリーンは新しい文化となる。

海岸清掃しなくてよい未来を考えながら
みんなで言う海岸清掃は楽しい

● サガリバナと保全活動

夏の夜、みんなでそっと観察したい、 守り育てた森の花

サガリバナは夏の夜に花を咲かせる。
赤、白、ピンク、少しずつ異なる色の花。
甘く強い香りが森に満ちる。

手軽に楽しめるサガリバナの観察は、
自然に興味を寄せるための入り口。

地域の人みんなで時間をかけて
大切に育てたサガリバナ群落。
たくさんの人に見てほしい。
そっと見守るように観察してほしい。



自然を楽しむために、 私たちが季節や時間を合わせる必要がある

サガリバナ

サガリバナ科の常緑高木。6～8月頃、夜になると花を咲かせ明け方に散る。強い香りが森に満ちる。花の色も赤、濃いピンク、ピンク、ワインレッド、うす黄緑、オレンジなど様々。



平久保
サガリバナ群落

久宇良
サガリバナ群落

伊原間サガリバナ群落



親しんでもらいたい自然もあれば、
そっとしておきたい自然もある

サガリバナ群落の保全活動

2016年(平成28年)に西表石垣国立公園が拡張され、平久保と久宇良のサガリバナ群落が国立公園に加わった。自生のサガリバナの大群落は、石垣島と西表島にしか分布しておらず、全国的にも貴重。

平久保のサガリバナ群落は、地域の人や多くのボランティアにより守り育てられてきた。アクセスが容易で、観光や環境教育などに利用しやすく、自然に親しむ入り口として大切にしたい場所。保全していくためには人の手をかけて維持する必要がある。

久宇良のサガリバナ群落はアクセスが難しく道に迷うこともあるので、中には入らないように。そっと遠くから見守ることも自然を守るためのひとつの手段である。

そして、伊原間にもサガリバナの群落がある。近くには川が流れ様々な生物がおり自然観察に適している。どのように活用していくか楽しみながらみんなで考えていきたい。

人が手をかけることで、
生き生きとする自然もある

平久保半島 自然と暮らしのストーリー

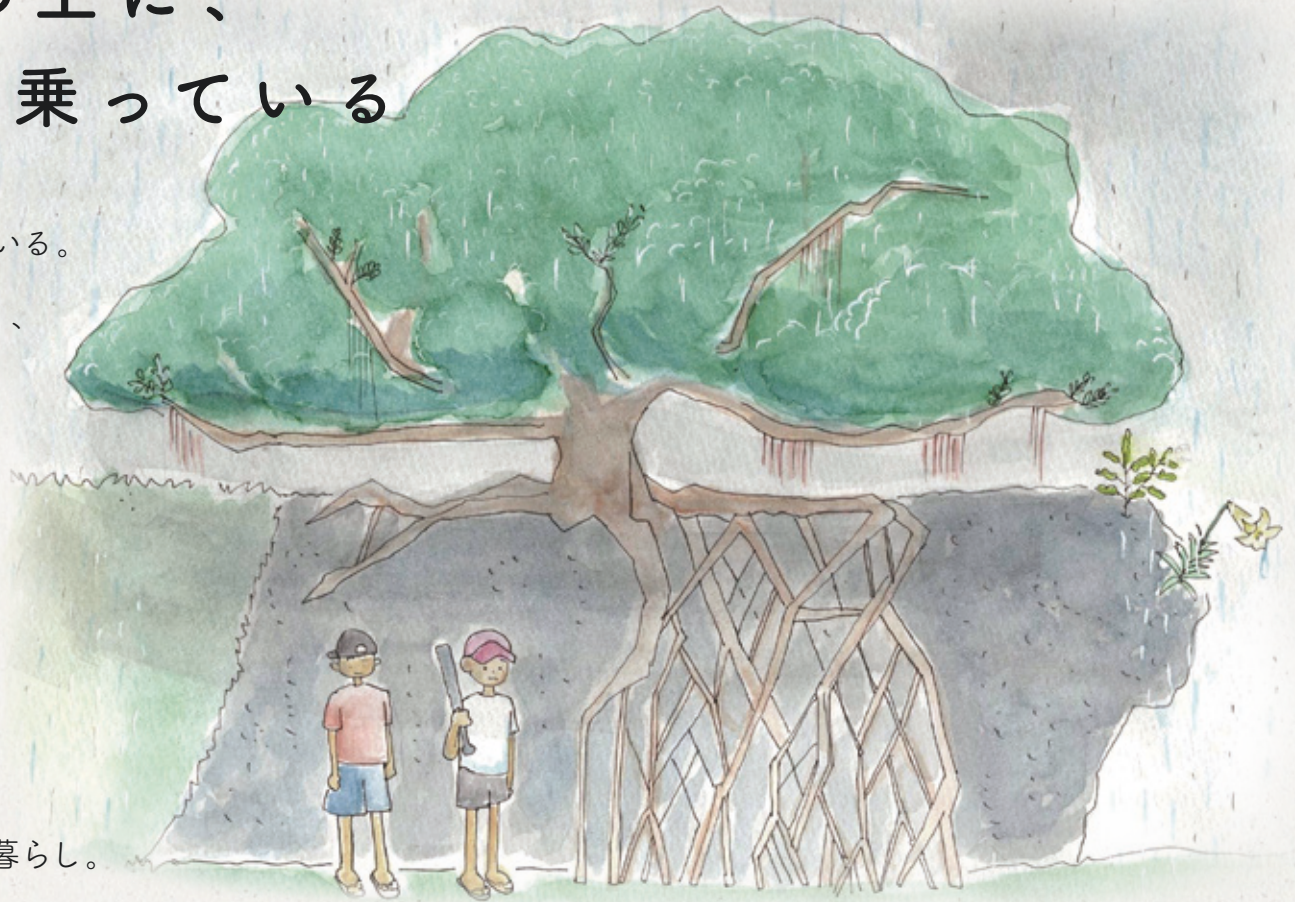
地質と地下水

雨が染み込む岩の上に、 私たちの暮らしが乗っている

平久保半島は2億年前の古い岩石でできている。
その上に12万年前のサンゴ礁の岩石があり、
それらの上に人の暮らしがある。

サンゴ礁の岩は穴だらけ。
雨が降れば染み込んで地下水となる。
地下水は2億年前の岩盤とサンゴ礁だった
岩の間から染み出し海へ流れ出す。

2億年前と12万年前、そして今の私たちの暮らし。
その間を縫うようにして水は巡る。



平久保半島 自然と暮らしのストーリー

サンゴ礁

今も昔も暮らしを支えてくれるサンゴ礁は、 すぐそこで息づいている

平久保半島を取り巻く海はサンゴ礁。
多様なサンゴが輝き、モズクが揺れる。
ナマコがちょっとだけ動き、イラブチャーが眠る。

今年もスクの群れがやってきた。
風が吹いたらサバニを浮かべよう。
すごいポイントを見つけたんだ。
あんなでっかいサンゴ見たことない。

こっち側は太平洋、向こう側は東シナ海。
世界の海とつながっている。



サンゴ礁の海は、こどもたちに生きる力を教えてくれる



海は遊び場

砂浜で野球をして打ったボールが海に入ればホームラン。釣り糸はセメント袋の紐、錘はサンゴのかけら、釣り針は針金を削って作った。ヤドカリが餌だった。夏休みはラジオ体操の前にイカ釣り。

海が受け止めている 私たちが選ぶ便利さの負荷



海を想う生活

赤土の流出、オニヒトデの大量発生、海水温の上昇で白化現象。今のサンゴ礁に昔ほどの元気はない。家庭で使う洗剤やマリンレジャー時の日焼け止めなど、海のことを考えながら、丁寧に選んで暮らしていきたい。



サンゴは大先輩

平久保灯台近くのサンゴ礁でリュウキュウキッカサンゴの巨大な群体が見つかった。何億年も前から命を繋いでいるサンゴたちは、生物として実はとても力強い。私たちは、先輩たちに敬意を持ち、見守り続けたい。

気づいてほしい
すぐそばにある大きな命

● エコロードと安良村

自然と歴史、過去と現在が 織り成す私たちの原風景

平久保半島の東海岸に沿う

「平久保半島エコロード」。

自然と歴史に触れることができる道。

広大な牧野とその向こうに広がるサンゴ礁の風景。

かつて多くの人々が暮らしていた安良村は、

遺跡として森の中に眠り、

半島をまたぐ峠道が今の暮らしと

歴史の向こうをつないでいる。

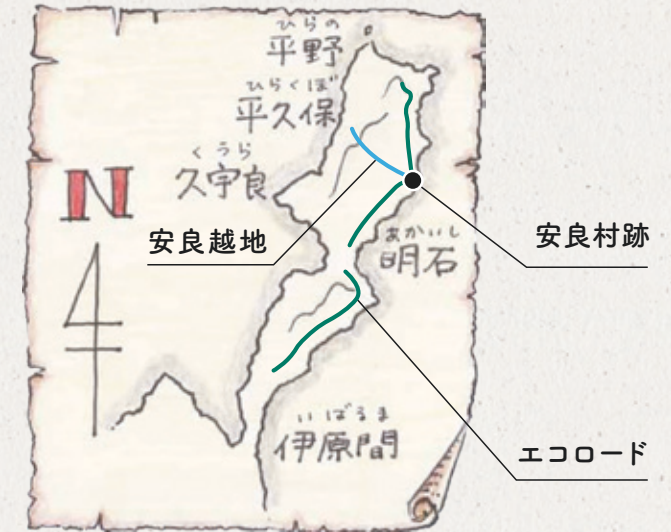
急ぎ足は望まない。



昔の人たちががんばって生きたことの延長に 私たちの今の暮らしがある

平久保半島エコロード

石垣島の東海岸をつなぐ総延長13.6kmの環境共生型道路。伊原間から明石を經由し最北端の平野まで続く。雄大な風景を楽しめる放牧場や森林部を抜ける道は自然景観を優先し基本的に未舗装路となっている。



不便さを楽しむ 心の余裕が必要な場所もある



安良越地(やすらくいつ)

安良村と平久保村を行き来するために使われていた峠道。現在もかろうじて歩くことができる。ルート上にはたくさんの巨木が点在する。



安良村跡

最盛期には500人近い人々が暮らしていた安良村。1771年に起きた「明和の大津波」により壊滅的な被害を受けた。生き残った人々が村の再建に力を尽くしたが1912年に廃村となった。現在は安良村跡の御嶽(おん)が文化財として残っている。

自然の中に埋もれ行く歴史を思いながら、
その自然を守り残していきたい

● 昔の暮らし

繋いでいきたい、あの頃のこと、 みんなでがんばったこと

昔は自給自足があたりまえ。

みんなまじめで働き者だった。

どの家も豚、ヤギ、ニワトリを飼っていた。

学校に馬に乗って行くこともあった。

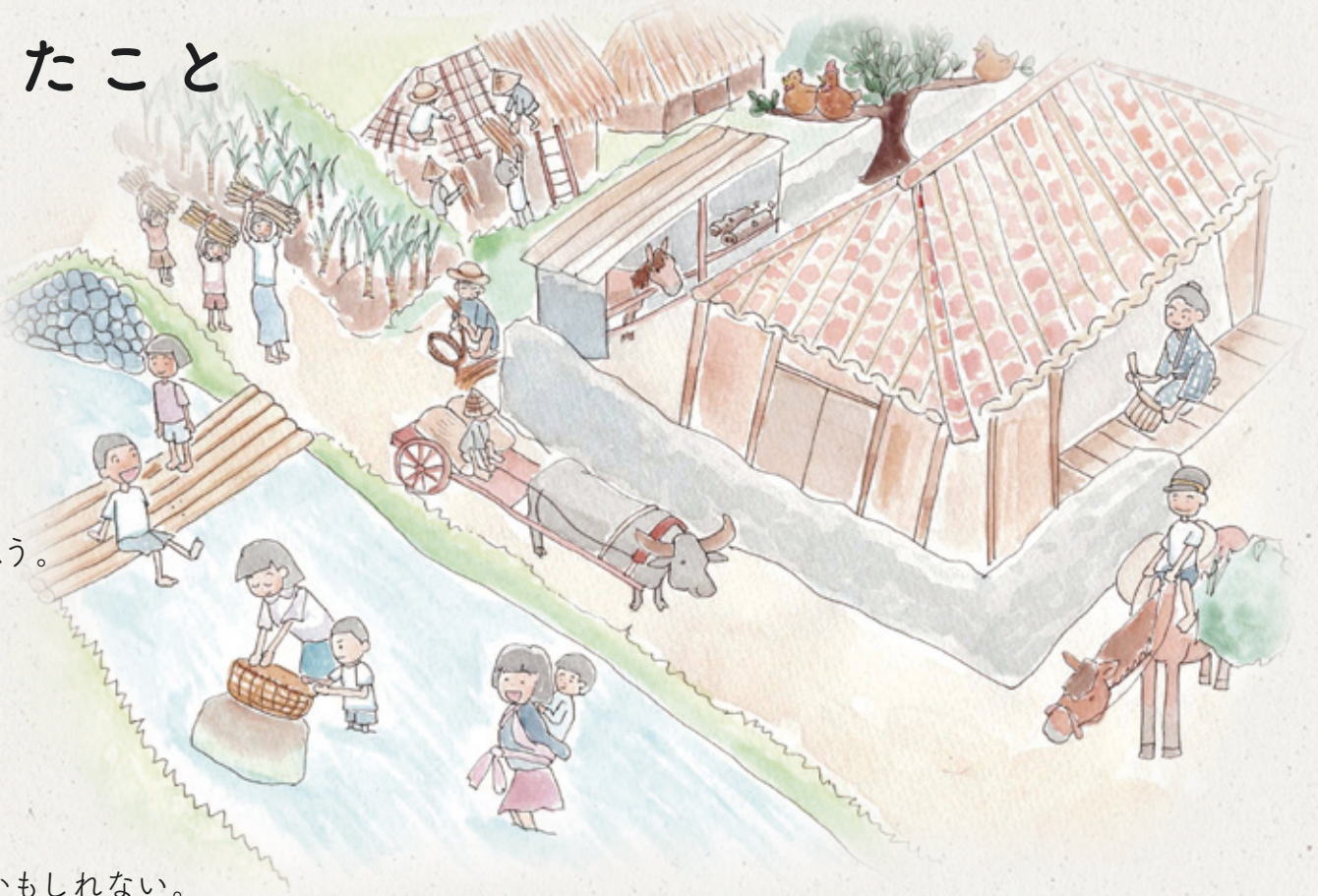
養蚕も盛んだった。日本一の品質だったと思う。

自分たちで育てた大豆と麦で作った

味噌が忘れられない。

昔のように暮らすのは今では厳しいけれど、

昔のような暮らしには新しい価値があるのかもしれない。



何もないように思えるこの地域にこそ、 学べることがたくさんある

開拓の暮らし

台風、旱魃、イノシシ被害、開拓当時の厳しい生活を、相互扶助・ユイマール精神で乗り越えた。大人も子どもも役割があり、苦しいながらも活気があった。



試練をもたらす厳しい自然から、 感謝の気持ちを学ぶことができる

平久保半島の歴史

- 1951年 伊原間へ自由移民が入植
- 1955年 明石へ349人が入植
- 1956年 久宇良へ254人、吉野へ108人、平久保へ151人が入植
- 1957年 平野へ80人が入植

助け合って暮らした経験は、
今の時代にまた輝く

歴史と祭事

隣り合う多様な伝統が、 新たな文化を紡ぎ出す

古くから続く村、平久保、伊原間。

戦後の入植による村、平野、久宇良、明石。

祭りや祭事、地域の決まり事、

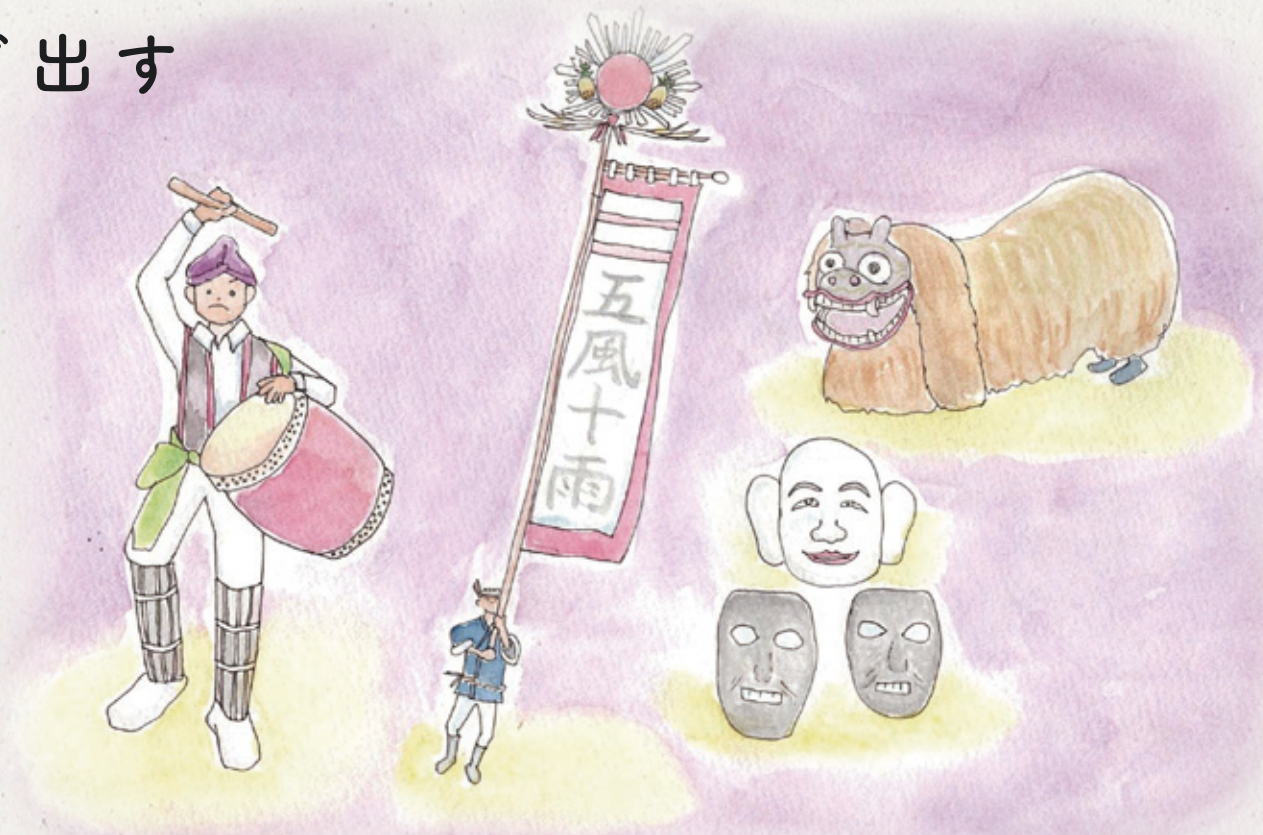
それぞれの村に歴史があり、誇りがある。

多様な伝統文化が隣り合い、

ひとつながりの故郷が紡がれてきた。

そして今、新しい文化を育て、

子孫に誇れる伝統とする時期が来た。



地域行事は工夫をしながら残し、続けることで交流の場ともなる



フナクヤ海神祭

現在の伊原間集落一帯にはかつて船越という村があり、東と西の海の間を、船を担いで越えて漁をしていたことに由来。船越漁港で旧暦の5月4日に豊漁と海上安全を祈願して行われる。



豊年祭

豊年祭は五穀豊穰を感謝し、来夏世(クナツユ)の豊作、地域住民の健康祈願をするお祭り。平久保半島では伊原間、平久保で行われる。



受け継いだ伝統の上に新たな文化が育まれる

伊原間のマングナシ (真世加那志)

昔、昼夜の別なくよく働く夫婦がいた。暗い夜も働くのでマヤ(猫)のように目が光り、ものが見え、この世の人間ではないのだろうと畏敬の念を抱かされていた。その後マヤ夫婦は忽然といなくなったが、まじめに働けば果報は必ずやってくることを伝えに来た神の使者として信仰されるようになった。



明石のエイサー

明石は琉球政府の計画移民による集落。入植後に始まったのが本島の様々な地域のチャンプルーエイサー。一時期は「明石エイサー祭り」として大きく開催していたが、現在は先祖供養に徹した地域行事と位置づけて開催している。



集落ごとにそれぞれの歴史があり、特徴的な文化がある

野生生物

にぎやかで命あふれる自然が 暮らしを取り囲んでいる

遠くからカンムリワシの鳴き声が聞こえる。
また今年もアカショウビンが渡ってきた。
サンゴが卵を産んだにおいが鼻をかすめる。

晩ごはんの後にサガリバナの花でも見に行こうかな。
今夜くらい、ウミガメが卵を産みにきているかもしれない。

そういえば森の中のあの大きな木は
今もまだそのままかな。
そろそろ違うセミが鳴き出した。
ツチトリモチが土の中から顔を出している頃だな。



野生生物による生態系と共存できる暮らしが財産である

平久保半島には
多様で希少な野生生物たちが
暮らす自然環境がある

野生生物たちとの共存

特別天然記念物カンムリワシを始め多様で希少な動植物があふれる平久保半島。私たちの生活と寄り添うように野生生物たちも暮らしている。石垣島でヤシガニ保護地区が設定されているのは平久保半島だけ。



外来種が
平久保半島の生態系を
脅かしている

外来種の問題

自然が豊かな平久保半島にも外来種が侵入している。グリーンイグアナ、インドクジャク、オオヒキガエル、シロアゴガエル…。外来種はもともたにいる生物の生態系を破壊する。今いる外来種の問題に関心を抱き、新たな外来種を増やさないようにしたい。

食文化 「食べる」ことで、私たちは自然と結ばれていた

大物のイノシシを捕った。みんなで分けよう。
グルクンもたくさん捕れたらみんなで分けたよ。
ヤシガニはみそのところがうまいんだ。

ハマダイコンはよく食べた。花もきれいだったね。
モンパノキは新芽を天ぷらに。
アダンの実は生で食べてたよ。
久しぶりに食べたらちょっとしびれた。

イラブチャーは刺身、チヌマンは冬に脂がのってておいしい。
サメは網で捕った。刺身を酢味噌で食べたり、天ぷらにしたり…。
ウミガメの卵はゆでても固まらないよ。塩水に溶いて飲むんだ。

最近は自然のものはあまり食べなくなったなあ。
でも、思い出すだけでわくわくする。



体験型観光

体験してほしい、いつもの風景、 あたりまえの自然

雄大な風景や普段は見ることのない動植物。

生き物に触れ、風に乗れ、波に揺られる。

日々の暮らしから解放され、

また日常へ戻るための元気をもらう。

この半島のいつもと同じ風景や、

当たり前の自然に価値がある。

体験を伴う観光を提供して、

私たち自身がそのことに気づかされた。



この地域の観光資源は、 小さな悩みを忘れ、日常に立ち向かう活力を与えてくれる

体験型観光で得られるつながり

良い景色の所で記念写真を撮り土産を買い次の場所へ移動という従来型の観光に対し、その地域の自然や文化について体験を通してより深く知るのが体験型観光である。

伝統的な船に乗る。在来種の馬に乗る。空から景色を俯瞰する。トレッキングで自然に触れる。夜の生き物観察。サンゴ礁で泳いだり潜ったり。星空を静かに眺める。伝統工芸に挑戦する。地域の食材を楽しむ。

時間をかけて楽しさとともに、その地域のことを知ることによって、日常に戻った来訪者と地域との間につながりが生まれる。私たちの活動を応援してくれるファンを増やしていくのも体験型観光の役割である。



来訪者の応援が、
この地域の自然や文化を
守ることにもつながる

観光が元気であることは平和であることの証
たくさん楽しんでほしい

● 夜と星空

天の川、夜の暗さが照らし出す

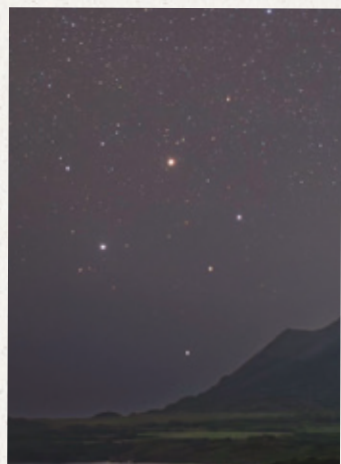
「天の川って本当にあったんだ！」
物語の中だけのものだと思っていた、
と都会から来た人は言う。

夜、見上げればあたりまえに天の川。
夜空の星を浮かび上がらせることが
できるのは、地上の暗さ。

夜が普通に暗いことに価値がある時代。
得ようとしても得られなくなったものが
ここにはまだある。



一年を通して天の川が見え、
南十字星も見ることができる
環境を維持したい



南十字星(みなみじゅうじ座)

国内で観察できるのは八重山諸島だけ。1~6月で南に開けた場所なら
平久保半島でも観察できる。何時ごろかは八重山南十字星時計を参考に。

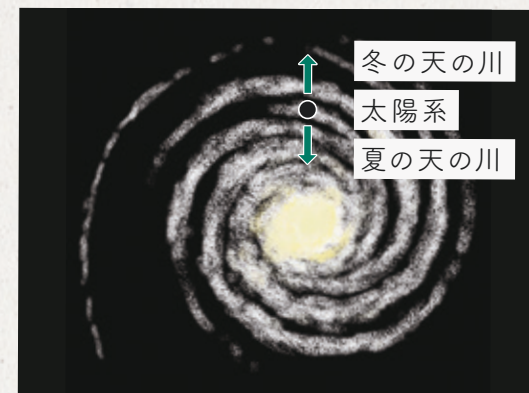


夜が暗いからこそ、
星空が観察できる

冬の天の川、夏の天の川

円盤状の銀河系の中に太陽系はあり地球がある。天の川は実は内側から
見ている銀河系の星々。冬は銀河
系の外方向を見ることになるので
星の密度が薄い。

夏は銀河系の中心部を見ているので
星の密度が濃くなる。冬でも夏でも
天の川を見ることができる平久保
半島の夜の暗さ、そのものに価値が
ある。



便利さとともに街が明るくなるにつれ、
暗いことの価値は上がっていく

マイクロヒストリ、 あの日の 平久保半島

「あの頃、こんなことがあったよ」
楽しかったこと、今でも忘れられないことなど、
思い出の出来事をお伺いし、文章と一枚の絵に仕上げました。

マイクロヒストリーとは、
一人の人物やある村の小さな出来事などを通して、
当時の社会や文化を理解しようとする取り組みです。

そのために「聞き描き」という手法を考案し、
あの頃の平久保半島の思い出を記録することに挑戦しました。

今とは少し違う（あるいは今でも変わらない）、
平久保半島での自然と暮らしのひとコマをご覧ください。

「聞き描き」にチャレンジ!



1 昔のお話を聞く中で、特に楽しそうに話されている話題や絵にしたらおもしろそうな話題を見つける。



2 伺ったお話の情景をその場で絵にしてみる。



3 絵を描く上で、わからないことがたくさん出てくるので、さらにお話を伺う。話している方も話しながら忘れていたことを思い出す。



4 「こんな感じでしたか」と絵を見せながら絵を仕上げる。その場ではラフに描いて、あとで丁寧に完成させる。

あの日の
平久保半島
その

1 スクがやってくる季節は、 今でも自分の中に刻まれている



1970年頃(昭和45年) 明石周辺の東海岸

ハーリーが終わるとスク捕りの季節がやってくる。こどもの頃はスク捕りの網なんてないから、家にある蚊帳で捕っていたんだ。蚊帳は目が細かすぎて水が抜けなくて、すごく重たかったけど。

大人もこどもも、それぞれ役割分担があった。群れの動きを見て指示する見張り役、追い込む役、蚊帳を持って海に入る役。サンゴの間からスクが浅瀬に近づくのを見て、みんなで蚊帳を持ち走って群れを追いかけた。普段は足が遅いのに、この時ばかりは足が速くなる人もいたんだよ。美味しいスクが捕れるのは数日だけ。浜には何グループもいて、競って捕ったな。

スクの群れは上から見ると赤い塊に見えるんだよ。腹のところが赤いからね。群れが進む方向に蚊帳の底を向けて、吊っている部分が袋状に広がるようにした。蚊帳の入り口を広げやすいように木の棒をつけたり、手で水面を叩いて音を出して誘導しながら追い込んだりしていたよ。一度捕ったら浜に戻って桶ですくって軽トラに乗せて、また捕りに行く。ポリバケツで塩漬けて、沖縄本島から来る買付人に売っていた。

今はスクも少なくなって捕りには行かなくなったけど、季節になると海を見たり、他の人に様子を聞いたりしてしまうなあ。

————— F・Hさん(1963年生まれ)、伊原間在住

関連する「自然と暮らしのストーリー」

- 海岸と漂着物
- サンゴ礁
- 昔の暮らし
- 野生生物
- 自然と食文化

スクはアイゴの稚魚。初夏の大潮に満ち潮に乗って大群で沿岸部に寄ってくる。しかし、近年は以前より少なくなっているという報告もある。現在、沖縄のサンゴ礁内では、資源保護・環境保全・安全のために、一般の人が行う採取(いわゆる「遊漁」や「磯遊び」)には規制(沖縄県漁業調整規則・漁業権等)がある。

あの日の
平久保半島
その

2 帰り道に咲くツツジの風景は、 自然と人の営みによって織り成されていた



1973年頃(昭和48年)

明石から伊原間の東海岸側(現在の平久保半島エコロード)

小学校へ通うのに朝は定期バスだったけど、帰り道は明石から伊原間まで5人くらいで歩いて帰ったよ。牛や馬が草を食べている一面の放牧地の中の道で、右側が山、左側が海。道の脇にはバンシルーが生えていて探して食べて歩いた。野イチゴもあったなあ。

山は今みたいじゃなかった。木がなかったんだよ。よーいどんで頂上まで競争ができた。春になるとツツジが満開で、山の斜面がピンク色になっていたのを忘れられないなあ…。

時期になると野焼きをしていたから、大きな木が育つこともなかったのだな。だからツツジが育って、春になるとあちこちで咲いていた。

今では放牧地ではなくなって、野焼きもしなくなったから牧草地も山も森に戻っていつている。こうなってしまうと人の手ではどうにもできないからね。牛や馬が草を食べて整備してくれていたということがよくわかる。

今でも春になると、ツツジでピンクになる山が懐かしくなるなあ。

————— K・Nさん(1963年生まれ)、伊原間在住

関連する「自然と暮らしのストーリー」

- 海岸と漂着物
- エコロードと安良村
- 昔の暮らし
- 野生生物
- 自然と食文化

平久保半島エコロードが通る半島の東側の多くは、長らく放牧場として利用されてきた。広大な草原とその向こうに広がるサンゴ礁という独特な景観を有し、ソテツ、ヤエヤマノイバラ、野生化したグアバ(方言名バンシルー)などが低い高さで生えている。サキシマツツジも放牧場を彩る植物の一つであったが現在は沖縄県の絶滅危惧種に選定されている。

あの日の
平久保半島
その

3 旧暦三月三日の浜下りで、人と人、 自然と人が食を通して繋がっていた



1960年頃(昭和35年) 平野海岸

何十年も前の話だよ。こどもの頃のことだから。その頃の浜下り(はまうり)は、ご馳走を持って家族で馬車に乗って行ったわ。朝早くから母が料理をして、うちでは父がお重に盛り付ける担当だったの。ヨモギの菱餅、お赤飯のおにぎり、そして天ぷらとか総菜の三段だった。父が操る馬車に家族で乗って、灯台のあたりから浜へ下りる道があったの。浜に行くとき隣近所の人たちも来ているから、ゴザを敷いて一緒にお重をわけて食べたのよ。

浜ではこどもは水遊びをして、父はタコ、シャコガイ、サザエ、タカセ貝なんかを捕っていたわ。保存ができない時代だから、食べる分だけ捕っていたの。捕れたものは神棚に上げてから食べるのよ。こどもにとっては浜下りと豊年祭が一大イベントだったわ。

今でも週末に近所の人と海に行くのが楽しいの。昔みたいに潮干狩りができたらもっと楽しいのに。

————— K・Yさん(1953年生まれ)、平久保在住

関連する「自然と暮らしのストーリー」

- 海岸と漂着物
- サング礁
- 昔の暮らし
- 歴史と祭事
- 野生生物
- 自然と食文化

浜下り(はまうり)とは、沖縄で行われる伝統行事で、旧暦の三月三日に海辺に行って身を清め健康を祈る行事。昔は女性の厄払いの行事とされていたが、近代以降に家族で潮干狩りや海遊びを楽しむ日へと変化した。現在は資源保護などのための規制があり以前と同じような楽しみ方はできないが、気温も上がり水もぬるみ始める季節であるため、浜下りのタイミングで海に入ることを楽しみにしている人は多い。

4 今では森に還ったパイン畑の山は、 家族の思い出とともに集落を見守っている



1960年頃(昭和35年) 久宇良集落

昔は山の上までパイン畑だったよ。パインは平地より坂の方が適しているし、土壌が良かったから山側はパイン畑にしてお金にしていたよ。久宇良では入植5年頃からパインを作り始めたんだ。パインは収穫が一番の楽しみ。こどものころから手伝いはしていて、収穫は家族総出だった。

棘が痛いから長袖・長ズボン・長靴の格好で、籠を背負っていたよ。缶詰になるから、鎌も使ったけど、茎を手で折って収穫することも多かった。会社から集荷に来るダンプがいっぱいになるまで、月明かりで夜まで収穫したよ。おやつはカラスがかじった売れないパインを口が切れるまで食べていたな。オオコウモリが地面に下りてきてパインを食べるところを見たことがあるよ。

パイン会社がなくなってから山は入植前の森に戻りつつある。

私は今でもあの頃の品種のパインを作り続けているよ。パインが好きの人に食べて欲しいなあ。

————— S・Mさん(1943年生まれ)、久宇良在住

関連する「自然と暮らしのストーリー」

- 地質と地下水
- 昔の暮らし
- 野生生物
- 自然と食文化

1950～60年代の沖縄では、パインはサトウキビと並び沖縄を代表する農作物だった。缶詰への加工用として経済を支えたが、1990年の輸入自由化に伴いやがて缶詰工場もすべて閉鎖された。その後、生食用のパイン生産へと切り替わっていったが、加工用が生産されていた頃に比較するとその生産量はずっと少ない。

あの日の
平久保半島
その

5 海に飛び込んでいたあの頃の日常は、 伝えていきたい生まれ島の魅力に変わった



1990年頃(平成2年) 明石の東海岸

こどもの頃、大人から「海は危ない」と言い聞かされてきた。だからそれがしゃくにさわって、こっそりと海に遊びに行っていた。でも親はそんなことはわかっていたのじゃないかな…。まあ、なにしろ海で遊ぶのは楽しかった。

小学生の時、中学生の先輩たちに秘密の場所に連れていってもらい、見上げるような岩をよじ登って海に飛び込む遊びを教えてもらった。高さは10mくらい。最初は怖かったけど、だんだんと高いところから飛び込めるようになっていった。大学に入って地元を離れても、戻った時はまた遊びに行っていた。

大人になって来島した大学の友人をいつもの遊び場に連れて行って、いつものように海に飛び込んだ。友人には「お前の日常は、非日常だ」と言われた。そう言いつつも楽しそうにしていたのが印象的だった。

何年か前から、地域の子どもたちを飛び込みの崖に連れて行くようになった。その日は怖くて飛べなかった子が、次に行ったときには飛べるようになったりする。海だけでなく山登りさせたり、夜の生き物観察に連れて行ったり、満天の星空を眺めたり、いろいろな島の自然を子どもたちに伝えるのは本当に楽しいな。そして、今では観光の仕事もするようになった。自分にとっては日常である平久保半島の自然を、観光で訪れる人にも伝えていきたい。

————— G・Mさん(1980年生まれ)、明石在住

関連する「自然と暮らしのストーリー」

- 海岸と漂着物
- サング礁
- 野生生物
- 体験型観光
- 夜と星空

1990年代に「自然を守りながら観光する仕組み」として沖縄にエコツーリズムが導入され、石垣島でも2000年頃から島外移住者がエコツアーを開始した。2007年のエコツーリズム推進法の制定、同年の西表国立公園から西表石垣国立公園への拡張といった後押しを経て、石垣島出身者がエコツーリズムに取り組む現在を迎えている。

もっと知りたい方へ

平久保半島自治協議会について

平久保半島の5公民館を中心として2024年に設立された協議会です。平久保半島共同憲章にのっとり、平久保半島の歴史や文化、自然資源を活かした平久保半島ブランドを確立することを目指して活動しています。

平久保半島共同憲章

第1条(目的) 平久保半島の自然環境と景観を保護し、未来の世代にその美しさを引き継ぐことを目的とします。

第2条(星空保護) 平久保半島の星空を保護するため、光害を増やさない取り組みを行い、濃く巨大なアーチを描く天の川が見える世界的にも稀な環境を未来に繋ぎます。

第3条(統一景観の維持) 平久保半島に進出する企業に対して、看板の色、街の色、建物の高さを統一する事を推奨し、地域全体の景観を保護し平久保半島ブランドの創出を企業と共に目指します。

第4条(持続可能な地域発展) 自然環境と調和した持続可能な経済活動を推進し、地域の発展に寄与します。

第5条(地域住民の利用権保護) リゾート開発により地元住民が排除されることなく、地元の方々が生活道路や海岸を自由に利用できる権利を守ります。

第6条(歴史・文化の保護) 平久保半島の歴史と文化を継承し、その保護を通じて地域の文化遺産を守ります。

第7条(騒音対策) 平久保半島の自然環境と住民の生活環境を守るため、過度な騒音を発生させないよう取り組みます。

第8条(暴力団等の排除) 平久保半島の自然環境と景観保護活動において、暴力団およびその関係者の関与を一切排除します。地域の安全と安心を確保するために、関係機関と協力し暴力団等の排除を徹底します。

第9条(事業者の認定) 平久保半島の地域住民と共に平久保半島の自然環境保護に努める事業者やツアーガイドを認定します。認定制度を導入する事で地域に根付いた事業者を保護し、悪質な事業者の排除を徹底します。

第10条(水資源の確保) 平久保半島では今でも水道水と別に生活用水として使われている地下水資源があります。今後想定される大規模開発に伴う地下水資源の異常利用を阻止し、地下水資源を保護します。

主な活動や詳細は
公式WEBサイトをご覧ください



生きものとの関わり方について

希少な野生生物と共存して暮らしていくために、彼らの生きかたや、守るべきルールを知りましょう。

カンムリワシ

人にとって便利な移動経路である道路は、カンムリワシにとっては食事の場。食事中に交通事故にあい、ケガをしたり、死んでしまうカンムリワシが後を絶たない。法定速度を守り、ゆっくり車を走らせよう。詳しくは「カンムリワシ・リサーチ」と検索してください。



サンゴ

平久保半島の浅い海のサンゴたちは、オニヒトデの大発生や、たび重なる白化現象と直面しながら、懸命に生きてたくさんの生き物の礎になっている。触ったり、踏み付けたりせず、上手に観察しよう。詳しくは「米原海岸利用ルール」を検索してください。



西表石垣国立公園について

西表島、石垣島とその間に挟まれたサンゴ礁の海と島々からなる日本最南端の国立公園。平久保半島の多くの地域が本国立公園に指定されており、平久保崎の北に位置する大地離、嘉良川一帯や、平野、平久保、明石の地先の沿岸は特に保護すべき地域に指定されています。

国立公園内では許可や届出が必要な行為があります。ルールを守り、平久保半島の景観や自然環境を維持していきましょう。



ヤシガニ

1kgの重さのヤシガニは約20歳といわれる。石垣島にはヤシガニ保護条例があり、平久保半島の一部が通年の捕獲禁止地区になっている。これからもヤシガニ料理を味わいつづけるためにも、ルールを知り、守っていきましょう。詳しくは「石垣市ヤシガニ保護条例」を検索してください。



そのほかのルールや参考情報

石垣市自然環境保全条例

石垣市では、市内で採集・損傷してはいけない生き物を103種指定しています。



沖縄外来種.com

外来種であるインドクジャクやオオヒキガエルが引き起こす問題を学び、人間と動物、自然が共存する方法を考えましょう。



観光の情報について

平久保半島自治協議会では持続可能な地域社会の形成に貢献する事業者を応援しています。



平久保半島 自然と暮らしの道しるべ

石垣島平久保半島インタープリテーション全体計画

策定 環境省沖縄奄美自然環境事務所／平久保半島自治協議会

管理 平久保半島自治協議会

協力 明石公民館／伊原間公民館／久宇良公民館／平野公民館／平久保公民館
意見交換会に参加いただいた皆さま
越智 正樹（琉球大学 国際地域創造学部 教授）
西村 仁志（広島修道大学 人間環境学部 教授）
一般社団法人八重山ビジターズビューロー
石垣市 企画部 観光文化課

クリエイティブ
ディレクション 山城 廉太（株式会社18project）

デザイン 仲村 綾莉（株式会社18project）／白浜 汐

イラスト 朝倉 美枝（表紙、地図、ストーリーブック）
崎山 絵里子（はじめに、暮らしと文化のキーワード、自然のキーワード、生きものとの関わり方について）
大堀 健司（鳥観図）／大堀 則子（自然と食）

写真提供 朝倉 美枝（海岸と漂着物）／峰 洋二（サンゴ礁）／伊原間公民館、掘井 太朗（歴史と催事）
久宇良公民館、掘井 太朗（昔の暮らし）／新垣 信成（夜と星空）／大堀 健司（その他）

製作 一般財団法人沖縄県環境科学センター
石垣島アウトフィッターユニオン

本冊子の骨子は、環境省事業「令和6年度石垣島北部地域インタープリテーション計画検討調査業務」で作成しました。

「令和7年度石垣島平久保半島インタープリテーション全体計画の主流化のための調査検討業務」、

「令和7年度石垣島平久保半島インタープリテーション全体計画更新等調査検討業務」の中で得られた情報に基づき内容を更新しました。